



初等部だより 10月号

鎌倉女子大学初等部

平成29年9月28日

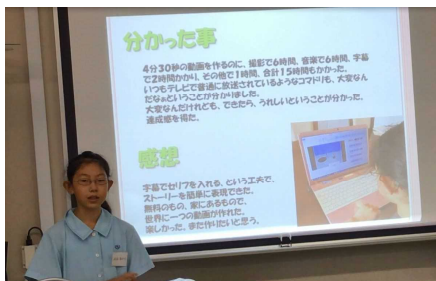
第7号

夏休み自由研究発表

部長代理 勝木 茂

秋分の日を過ぎ、日が暮れるのが少しずつ早くなってきました。講習等、放課後活動に参加した後の子どもたちの下校時の安全には、十分注意を払いたいところです。また、登下校時の安全については、日頃より初等部においても指導をしていますが、ご家庭においても繰り返しご指導くださるようお願いいたします。

さて、少し前になりますが、二学期の最初の1・2週目に、高学年を中心に多くの学級で「夏休み自由研究」の発表が行われていました。自分で課題（テーマ）を決め、実際に実験や観察を重ね、自分なりの結論を得たもの、実際にその場所を訪れて、自ら見たこと感じたことを中心にまとめたもの等、実に個性あふれる様々な、まさに「自由研究」と言えるものが大変多く感心いたしました。



文部科学省「次期学習指導要領等改訂の基本的な方向性」の中で次のような指摘があります。(以下一部引用)「情報化の進展に伴い、子どもを取り巻く情報環境が変化する中で、視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構成や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっている」また、全国学力・学習状況調査の結果等によると、「判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることに課題のある子どもたちがいる」と言われています。

そのような視点から、初等部の「夏休み自由研究発表」を捉えてみると、その発表は、内容、方法ともに上述の指摘についてそれほど心配する必要はないなと感じたところです。もちろん個人差はありますが、高学年で

は、プロジェクターやプレゼンテーションアプリ等を自在に使いながら、発表する内容やその順番を工夫し、根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを生き生きと発表している様子が見られました。また、発表での話し方（伝え方）にその子らしさが表出しているものも多く、発表している側も発表を見たり聞いたりしている側も、何となくあたたかな雰囲気自然にできていました。

初等部では、高学年を中心に様々な授業場面で「タブレット」端末を積極的に活用しています。今の子どもたちは、コミュニケーション能力が十分ではないとの指摘もありますが、タブレット端末等を自在に使いながら、子どもたち相互で様々なやりとりをしている様子を見ると、コミュニケーションの形態そのものの変化に柔軟に対応している子どもたちの姿ととらえることも大切だと考えます。初等部には、パソコンやタブレット端末、色々なソフトやアプリをストレスなく使える先生がたくさんいます。先生の指導のもと、情報活用能力が伸長し、問題発見・追究・解決能力が育っていくことが期待できると思っています。

もちろん、パソコンやタブレット端末、メール等を使わないで、日頃から友だちと楽しく会話し、互いの立場やその違いを体験的に理解し、よりよい人間関係を築いていくことも必要です。3年生は、9月21日(木)・22日(金)の2日間「足柄ふれあいの村」を中心とした宿泊体験学習を実施してきました。入学してはじめて、初等部の友だちと一緒に寝食を共にする2日間でした。わたしも、男子児童と一緒に風呂に入り、いろいろな会話を楽しむことができました。

